

9条「このまま」1人と2党！

参院選「憲法9条」アンケート

7月10日投票の参院選埼玉選挙区に立候補を表明している全員と比例区に候補者を擁立する全政党（政治団体）に、「憲法9条」アンケートを行ないました。

埼玉選挙区立候補者では6名中1名から、比例区に候補者を擁立している政党（政治団体）では11党中2党から回答が寄せられました。回答結果と「9条へのひとこと」を紹介します（50音順）

「9条はこのままでよい」候補者（1）

- **伊藤 岳（日本共産党）** 特攻隊の基地の町に住んでいた祖母の教えは「戦争だけは絶対にダメ」「命より重いものはない」というものでした。

この教えが私の政治家としての原点です。侵略戦争への反省からうまれた憲法9条があったればこそ、日本は70年以上にわたって戦死者を一人も出さず、戦争で外国人の命を奪うこともなかったのです。

安倍政権は昨年秋、多くの国民の反対を押し切って安保関連法＝戦争法の成立を強行しましたが、「海外で戦争する国づくり」は絶対に許せません。

私は戦争法の廃止・立憲主義を取り戻す、この一点での野党の共同を前進させながら、憲法が定める民主主義、平和主義、立憲主義にもとづく新しい政治を実現するために全力をあげる決意です。

「無回答」の候補者（5）

- 大野元裕（民進党）、小島一郎（幸福実現党）、沢田良（おおさか維新の会）、関口昌一（自民党）、西田実（公明党）

「9条はこのままでよい」政党（2）

- **日本共産党** 憲法9条は、恒久平和主義を徹底した、世界に誇る宝です。

安倍政権が立憲主義を乱暴に踏みこみ、戦争

法を強行したことで、法治国家としての土台が根底から危うくされています。国家権力が憲法を無視して暴走することを許せば、独裁政治に道を開くことになってしまいます。9条を生かした平和外交を進めるべきです。

日本の政治に立憲主義、民主主義と平和主義を取り戻し、「個人の尊厳」を断固として守りぬく社会にするために、力をあわせることを呼びかけます。

● 生活の党と山本太郎となかまたち

「無回答」の政党（9）

- おおさか維新の会、幸福実現党、公明党、国民怒りの声、自民党、社民党、日本のこころを大切に
する党、日本を元気にする会、民進党

市民が変える 選挙で変える

「11周年のつどい」から

伊豆の山 川瀬渉 貴

6月5日（日）、「九条の会さかど11周年のつどい」が、「明日の自由を守る若手弁護士会（あすわか）」所属の樋口雅一さん（川越法律事務所）を招いて、「自民党改憲草案（2012年決定）」について講話を聞き意見交換を行ないました。

折から、改憲勢力3分の2の行方争点となる7月の参院選を前にして、前日の4日（土）には、赤い服やアクセサリを身に付けた



5千人の女性たちが国会の周囲2キロを取り囲んだ

戦後71年 平和を心に刻む

戦争を語り継ぐ 子や孫の時代へ

8月14日（日）13時30分～16時 坂戸駅前集会施設

平和を願って燃える焦土の電柱（前園成也さん）

平和紙芝居、へいわのうた、など 九条の会さかど（283-4723 栗原）

ヒロシマ市民の描いた原爆絵画展

8月20日（土）～21日（日） 坂戸市文化施設オルモ 2階

原爆絵画展坂戸・鶴ヶ島地区実行委員会（289-2527 武井）

「女の平和 6.4 国会ヒューマンチェーン」で「戦争法憲法違反、今すぐ廃止」と抗議の声を上げ、当日(6月5日)は「戦争させない・9条壊すな!総がかり行動委員会」や「SEALDs」、「全国大学有志の会 総決起行動」など多くの市民団体4万人余が国会周辺で「政治を変える 市民が変える 選挙で変える」と声を上げていたのです。

自民党改憲草案に目を移すと——元首として天皇を戴き(第1条)、日章旗をかざし(第3条)、内閣総理大臣を最高指揮官とする国防軍を保持し(第9条の2)、武力行使の目的を持って海外派遣する(第9条2項)。おおいやだ! 70~80年昔とそっくりだ。

戦争と平和

思い返せば、太平洋戦争が始まったとき、私は北海道で行方不明になっていた大和君と同じ年齢であった(現在の天皇も当時皇太子として私と同学年である)。その前、私が幼稚園に入る前から父親は支那事変に招集されて戦地へ送られていた。

銃後(国内のこと)の日常生活でも、いつも日の丸の下で「君が代」が流れていた。全ての国民学校には、天皇・皇后の御真影を奉納する「奉安殿」が造られ、その前を通る都度、「気を付け」をして最敬礼を強いられた。

第2次大戦にも父親は再度招集され、私は長い間ひとりっ子の母子家庭であった。姫路市の白鷺城下を空襲で逃げ惑った。街は焼け尽し、母親の郷里である丹波へ疎開した。

小6の8月15日正午の、天皇の敗戦詔勅のラジオ放送を聞いた。縁側に置かれたラジオからキーキー雑音だらけの破れかぶれに近い玉音放送を近所の人たちと庭先で聞いたのだが、どうやら「戦争が終わった」ことだけは聞き取れた。嬉しかった。

真夏の晴れ渡った田舎のいちめんの田んぼ、その向こうの三尾山。急に景色が開けたような開放感に両手を広げて飛び上がっていた。モノクロが総天然色に一変したような感動があった。

父が復員し、街に帰り、私は中学生になった。上巻下巻に渡る「民主主義」の厚い教科書、新しい憲法の条文、新しい流行歌、私の青春の入り口には自由と平和が充ちていた。

——それが、また、天皇が元首? 戦没者の慰霊に一途余念のない両陛下の眉も曇るのでは…。

日章旗? オリンピックで沢山掲げてもらえば結構。「君が代」? 年6回の大相撲千秋楽もあるからネ。でも別に憲法でなくても。

そーりの国防軍? おもちゃじゃないよネ。隊員をはじめ国民の命が懸かっているんだもんネ。

さらに、そーりの緊急事態宣言? 「ワタシが総理大臣」大丈夫? 「アンダーコントロール」ノー・プロブレム! ほんとかな? その鼻下にヒトラーのチョコビ髭がチラチラ——私は御免こうむりたい。

「世界の9条」声高らかに

私たち九条の会さかどの「11周年のつどい」には、川島町からの参加も含め31名の参加者でした。

鶴舞の前園成也さんの尺八演奏で『アメイジンググレイス』とはちょっと興味をそそられました。他に『赤とんぼ』、『人生の並木道』、『別れの一本杉』は目を閉じて堪能しました。『佐渡おけさ』、『五木の子守唄』、終わりに古典本曲『山越』で締められました。

つどいの最後は、我らの「前文」全文と、9条の朗読で終了しました。

古雑巾の絞り滓を干し並べたような自民党改憲草案の前文はいただけない。ここはやっぱり「人類普遍の原理として到達した主権在民と大戦直後の世界平和への渴望と決意」を瑞々しく謳い上げた日本国憲法の前文がいい。いつまで朗唱し続けられるか、これも7月10日の参院選の成否にかかっています。

.....

8月の語り継ぐ会、ご参加を

元町 新井竹子

8月14日(日)の「戦争語り継ぐ 子や孫の世代へ」では、二人の方を予定していました。芦山町の今 実さんと鶴舞団地の前園成也さんです。お二人とも、皆さんの期待に応えようと、準備してくださっておりました。

ところが、高齢である今さんからは、6月初旬に辞退の報が入りました。残念ですが、仕方のないことです。

今さんから届いたお手紙の中から、今さんが考えておられることを紹介します。

「新聞を読み、本を詠んでは、沖縄の日本の国家統合はどうなるのか、本土で政治する国会議員、46都道府県の知事に問いたい。沖縄は日本国の領土か、沖縄は日米同盟の意義も抑止力の意味もよくわかっている。しかし、色々な問題を議論する前提となる信頼関係が沖縄と東京の政治エリート間で存在しなくなっているということだ。」

もし当日、お身体の具合が良いようでしたら、参加くださり、準備されたことを語ってくださるようお願いしました。

前園さんは、約束どおりに語り部をやってくくださることになっています。

前園さんは鹿児島県で1936年に生まれています。かの有名な特攻基地にも近く、無差別爆撃を受けた地の育ちです。色々貴重な体験を聞けると思っています。

お話の題は「平和を願って燃える焦土の電柱」です。ぜひ、多くの方に聞いてほしいと思います。

.....

今後の運営委員会(会員なら誰でも参加できます)

7月28日(木)、8月25日(木)、9月29日(木)10時~12時
北坂戸出張所内「坂戸市市民活動交流フロア」会議室
(溝端公園に面した「埼玉りそな銀行の看板」が目印)